

済生会山口総合病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 10月 策定
令和3年 12月 一部修正

【済生会山口総合病院の基本情報】

医療機関名： 済生会山口総合病院

開設主体： 社会福祉法人恩賜財団済生会

所在地： 山口市緑町2番11号

許可病床数： 310床
(病床の種類) 特定集中治療室 8床
一般病床 302床
(病床機能別) 高度急性期 114床
急性期 196床

稼働病床数： 310床
(病床の種類) 特定集中治療室 8床
一般病床 302床
(病床機能別) 高度急性期 114床
急性期 196床

診療科目：

内科	外科	皮膚科
呼吸器内科	呼吸器外科	泌尿器科
消化器内科	心臓血管外科	産婦人科
循環器内科	消化器外科	眼科
糖尿病・血液内科	乳腺外科	耳鼻咽喉科
腎臓内科	整形外科	リハビリテーション科
神経内科	脳神経外科	放射線科
小児科	アレルギー科	麻酔科
	リウマチ科	精神科

職員数：

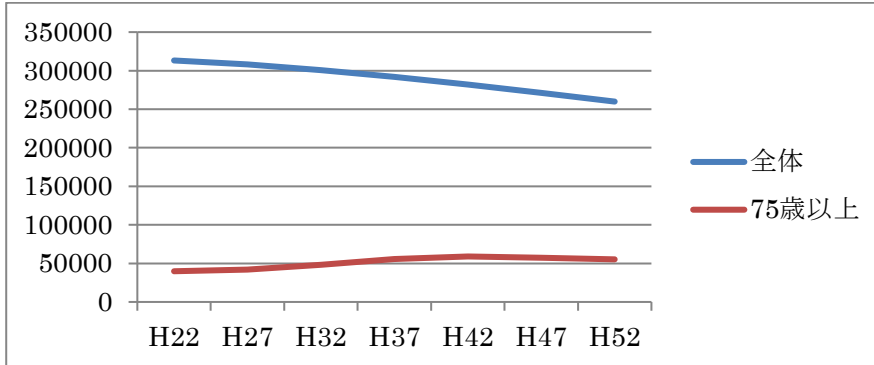
- ・ 医師 55名
- ・ 看護職員 324名
- ・ 専門職 105名
- ・ 事務職員 126名
- ・ その他 60名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

・人口

山口・防府医療圏の人口推移



山口県地域医療構想から抜粋

人口は平成22年(2010年)の313,239人が平成37年(2025年)には291,877人(-6.8%)、平成52年(2040年)には259,904人(-17.0%)に減少予測
75歳以上は平成22年(2010年)の39,832人が平成37年(2025年)には55,519人(+39.4%)に増加、平成52年(2040年)には55,275人(+38.8%)と横ばい予測

・圏域医療機関数

病院	27
一般診療所	255
歯科診療所	141
薬局	149

山口県地域医療構想から抜粋

本圏域医療機関数は左記の通り

・病床機能報告

機能別	H27(2015年)
高度急性期	547
急性期	1,470
回復期	399
慢性期	1,286
休棟	67
未選択	28
合計	3,797

山口県地域医療構想から抜粋

回復期病床が極端に少ない状況にある

② 構想区域の課題

- ・高度急性期、急性期についての集約化、役割分担・相互連携
- ・不足する回復期機能の確保
- ・退院患者を地域で円滑に受け入れることができるよう、在宅医療提供体制の充実強化、介護施設等の受け皿の確保
- ・訪問看護ステーション等の多職種連携による地域包括ケアシステムの構築
- ・認知症高齢者及び精神疾患患者に係る一般病院と精神科病院の協力体制の構築

山口県地域医療構想から抜粋

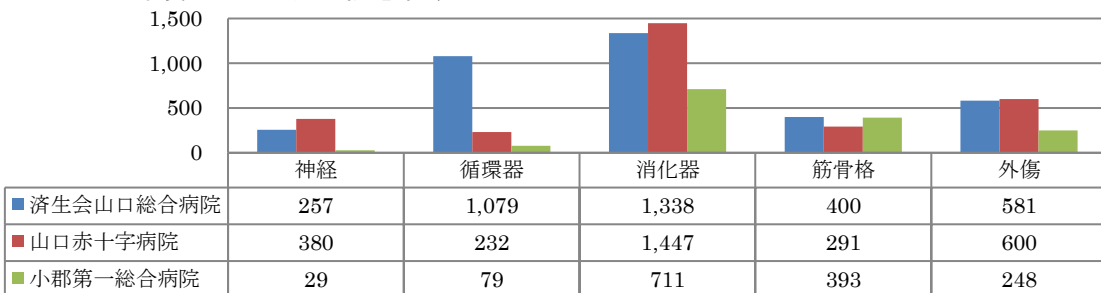
③ 自施設の現状

- ・ 当院の理念 私たちは地域社会に信頼され、質の高い医療を提供します。
- ・ 基本方針 急性期病院としての地域医療機関との連携を積極的に推進します
患者様に良質のサービスを提供します
目標達成のため自己研鑽につとめます
- ・ 主な施設基準

一般病棟入院基本料（7対1）	総合入院体制加算
地域医療支援病院入院診療加算	臨床研修病院入院診療加算（基幹型）
- ・ 実績（平成28年度）

平均在院日数	15.74日	病床稼働率	89.5%
救急車受入件数	2370件	全身麻酔件数	1976件
ペースメーカー移植術	61件	植込型除細動器移植術	9件
経皮的冠動脈形成術	264件	心臓・大動脈手術	131件
- ・ 特徴 山口県医療計画には、がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病における急性期医療機関と記されており、高度急性期及び急性期中心の医療を行っている。
山口市の二次救急病院として、救急医療や他医療機関からの要請に対処し、特に循環器内科及び心臓血管外科については365日24時間応需体制を、がん患者に対しては、手術・放射線治療・化学療法など効果的な治療を実施している。
また、地域医療支援病院として、高度な放射線機器の共同利用を実施し、紹介・逆紹介も各々50%・70%を超えている。

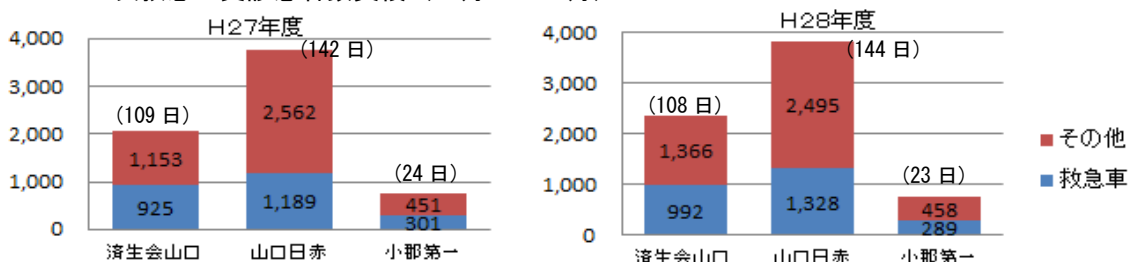
・ 山口市内二次救急3病院比較 H27年度 MDC別入院患者数



当院は循環器疾患が多い

DPC 評価分科会 H29. 2. 9 資料より

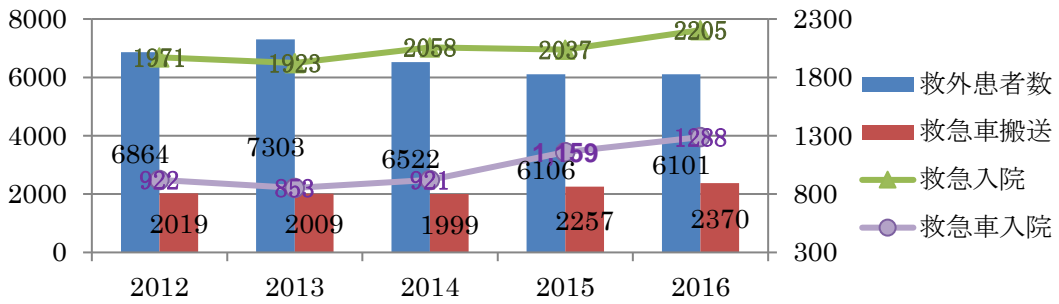
二次救急日受診患者数実績（4月～12月）



当院は患者総数、救急車搬送数ともに増加している

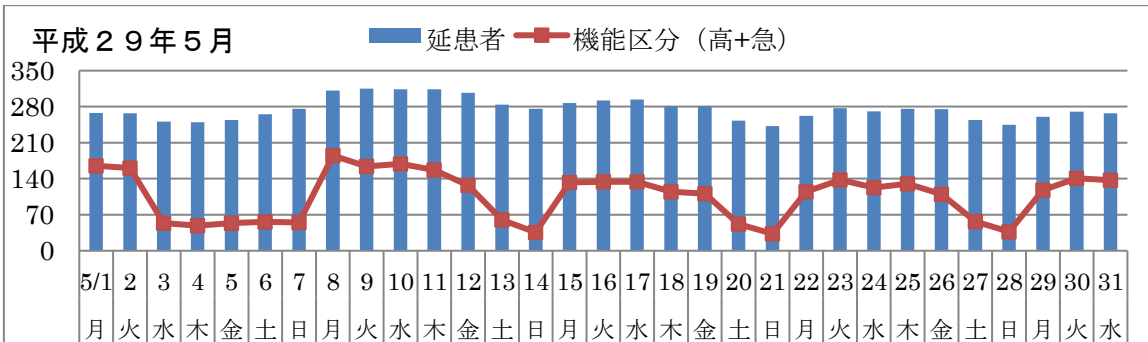
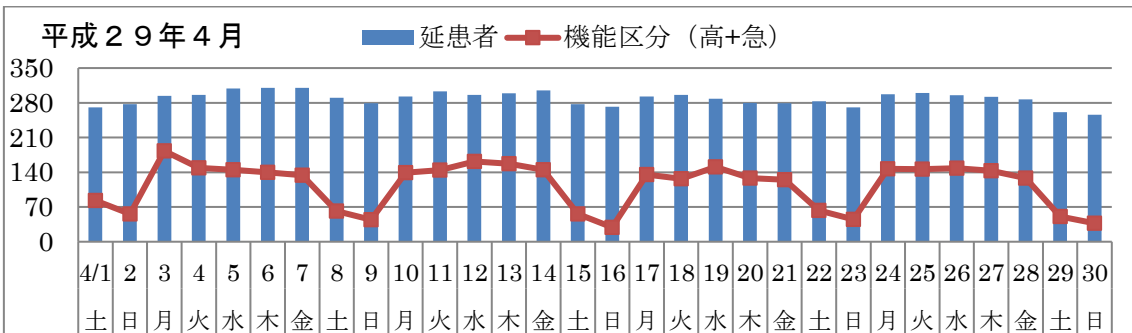
山口市資料より作成

当院救急患者数推移



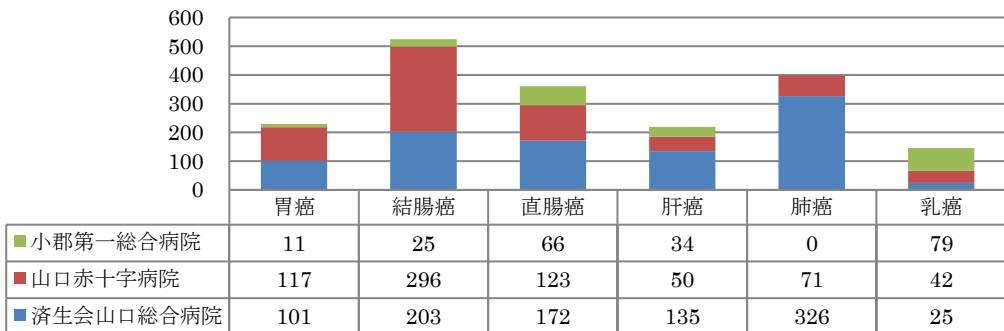
救急車搬送数及び救急入院、救急車入院数は増加している

当院機能区分別患者数



約半数は高度急性期・急性期の患者である

H27年度がん患者数



特に肺癌、肝癌、直腸癌が多い

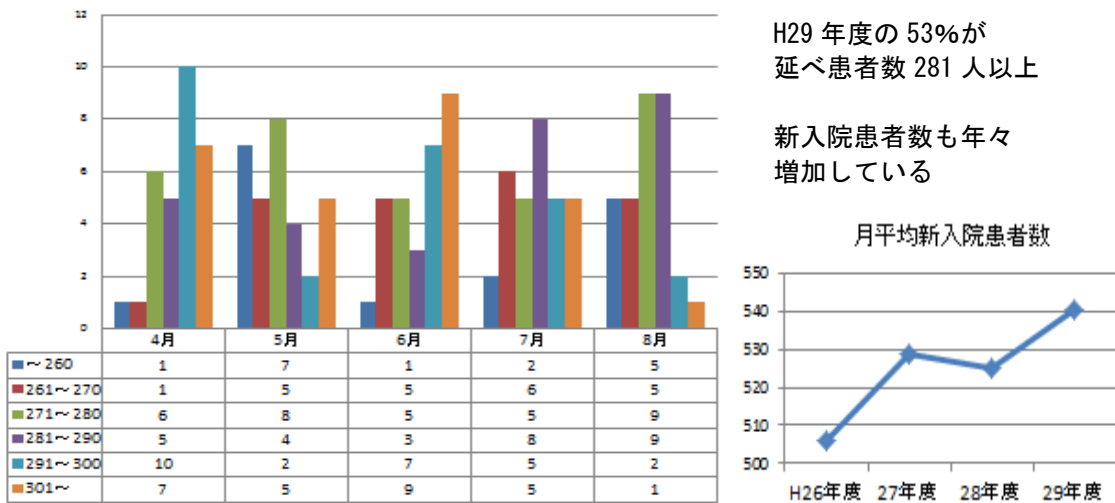
DPC 評価分科会 H29. 2. 9 資料より

当院経営状況推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
収入	9,296,606	9,428,337	9,385,348	9,622,229	9,521,449	千円
費用	8,819,124	8,999,376	9,142,452	8,968,296	9,072,660	千円
利益	477,482	428,961	242,896	653,933	448,789	千円
入院単価	59,505	60,681	61,880	61,517	61,625	円
外来単価	22,927	24,314	24,723	25,301	24,562	円

コンスタントに黒字を継続している

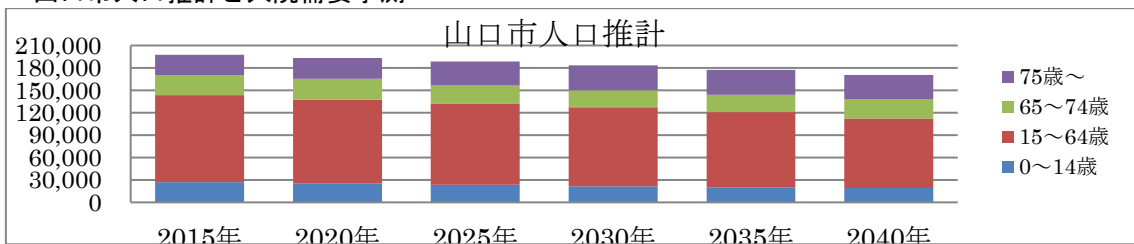
当院延患者数推移



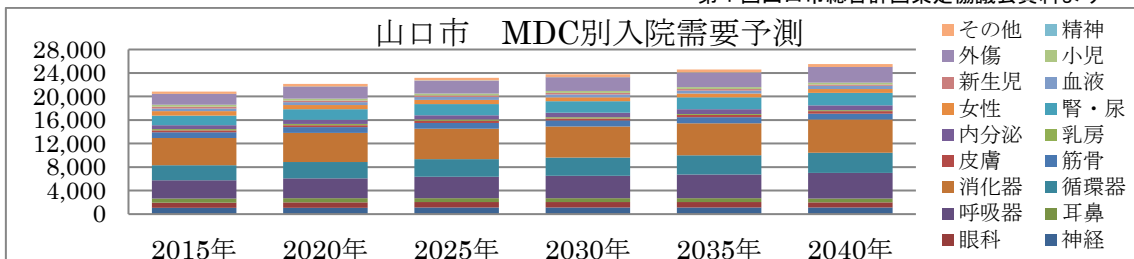
④ 自施設の課題 (R3.12追記あり (P11))

山口市の入院需要は2040年まで減らないと予測しており、今後も体制の維持が必要と考える。退院先の確保に時間を要し、苦慮している。精神科、認知症患者については増加傾向にあり、診療体制を整えていく必要がある。

・ 山口市人口推計と入院需要予測



第1回山口市総合計画策定協議会資料より

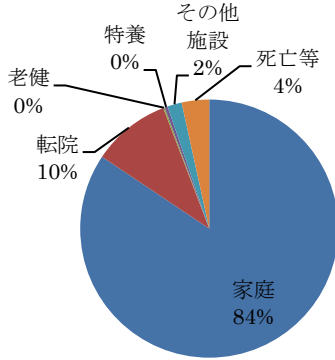


(※当院が作成・加工した2015年のMDC別・年齢別退院データを各年の山口市人口推計値に掛け合わせ予測値とした)

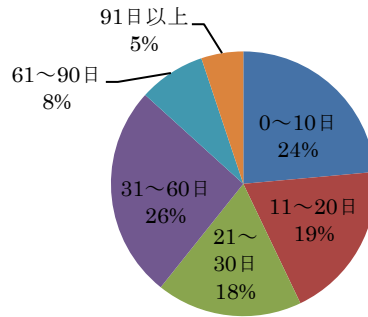
山口市の人口は減少するものの入院需要は2040年までは減少しないと当院は予測している。

・退院先の確保

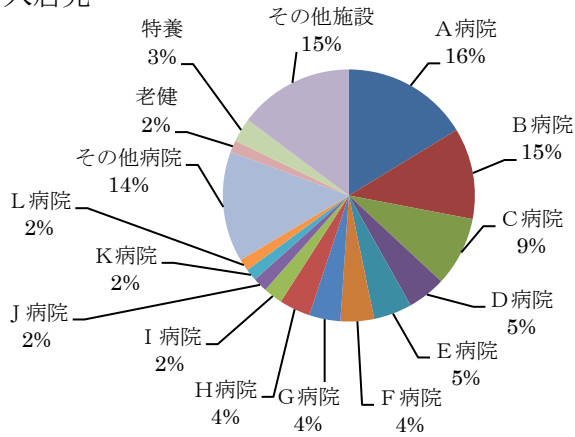
退院先内訳



退院調整要日数(H29年4月～8月)

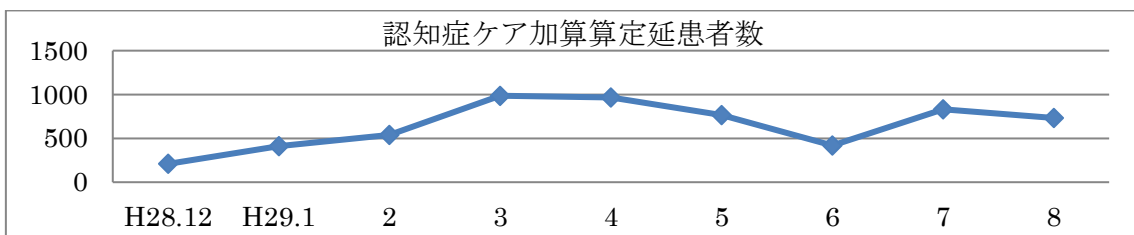
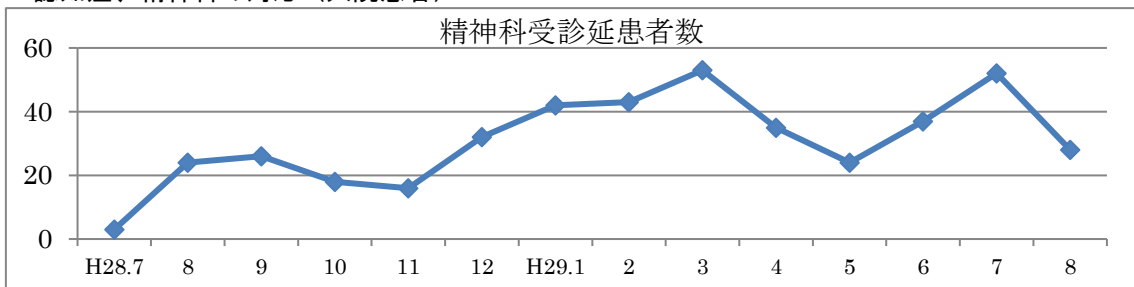


転院及び入居先



転院及び入居先の受け皿の確保が難しく、平均在院日数が長くなっている。

・認知症、精神科の対応（入院患者）



精神療法、認知症ケアともに増加傾向

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 救急医療
- ・ 循環器内科、心臓血管外科等の対応を中心とした高度急性期・急性期医療
- ・ がん医療

② 今後持つべき病床機能

- ・ 高度急性期及び急性期

③ その他見直すべき点

- ・ 認知症、精神科の診療体制の充実

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	114床	→	114床
急性期	196床		196 床 165床
回復期	0床		0床
慢性期	0床		0床
(合計)	310床		310 床 279床

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	新病院建設計画 ・病床整備計画を策定	新病院建設計画 ・当院の基本計画策定	
2018年度	新病院建設計画 ・設計図書の策定	新病院建設計画 ・2018年9月までに基本設計完了	
2019～2020年度	新病院建築計画 ・着工	・2019年度中に着工 →2020年10月着工	 
2021～2023年度	病床数の削減	・2023年度末までに竣工 →2027年2月竣工予定 ・2022年後期に病床削減を実施	

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床稼働率： 90% ・ 手術室稼働率： 70% ・ 紹介率： 60% ・ 逆紹介率： 80% <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費率： 48% ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合： 0.3% <p>その他：</p>
--

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

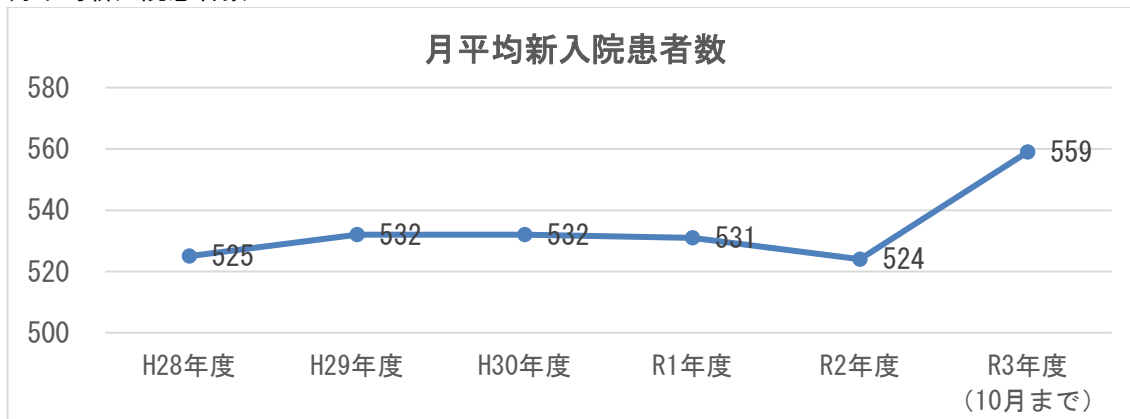
【4. その他】

(自由記載)

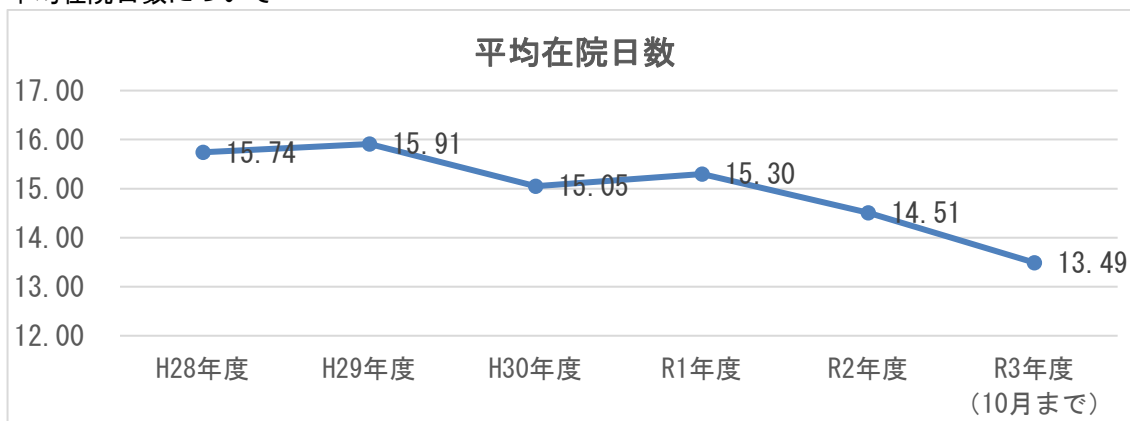
《追記：令和3年12月》

新規入院患者数は堅調に維持できており、プラン策定時の予想どおり入院需要の落ち込みはないが、退院調整と回復期等の医療機関との連携強化が実を結び、課題であった在院日数の長期化の改善が図れ、H29年度に比して2.4日の短縮となった。このため、1日あたり約40名の在院患者の減少となった。

月平均新入院患者数について



平均在院日数について



退院調整要日数（R3年4月～10月）について

